

## 添削指導及び面接指導の指導方法書

## 1 添削指導

## (1) 添削指導の進め方

通学講習初日に通信課題を配布し、自宅学習にて課題を行う。

出題数の 70%以上を合格とし、不合格の場合には基準点に到達するまで再度課題を提出する。

質問への回答はメール・FAX・電話にて対応する。

また、基準点は次の通りとする。

回数	科目	提出期限	合格点/出題数
1	介護の基本	受講 3 日目	17/23
2	介護における尊厳の保持・自立支援	受講 4 日目	14/20
3	介護・福祉サービスの理解と医療との連携	受講 5 日目	17/23
4	老化の理解	受講 6 日目	14/19
5	障害の理解	受講 7 日目	10/13
6	認知症の理解	受講 8 日目	19/26
7	介護におけるコミュニケーション	受講 9 日目	11/15
8	こころとからだのしくみと生活支援技術	受講 12 日目	55/78

## (2) 課題（レポート）（別紙として添付）

1. 介護の基本
2. 介護における尊厳の保持・自立支援
3. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
4. 老化の理解
5. 障害の理解
6. 認知症の理解
7. 介護におけるコミュニケーション
8. こころとからだのしくみと生活支援技術

## 2 面接指導

面接指導の講義・演習

1 職務の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	1.5 時間	<p>《講義内容》</p> <p>介護職が働くサービス現場にどのようなものがあるか、介護編サービス（居宅・施設）とそれ以外（障害者・児サービス等）について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険サービス（居宅、施設）</li> <li>・介護保険外サービス</li> </ul>

②介護職の仕事内容や働く現場の理解	4.5 時間	<p>《講義内容》</p> <p>多様な居宅、施設サービス現場におけるそれぞれの仕事内容を理解する。講師による講義の他、様々な働く現場について視聴覚教材を活用して理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容</li> <li>・ 居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ</li> <li>・ ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携</li> </ul> <p>《演習》</p> <p>DVD や事業所パンフレットなどを活用し、働く現場の理解を深める。</p>		
合計	6時間			
2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）				
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①人権と尊厳を支える介護	5時間	1時間	4時間	<p>《講義内容》</p> <p>人権や尊厳を守ることの重要性を、背景となる哲学や制度、法律とともに理解する。</p> <p>(ア) 人権と尊厳の保持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人として尊重・アドボカシー・エンパワメントの視点</li> <li>・ 「役割」の実感・尊厳のある暮らし・利用者のプライバシーの保護</li> </ul> <p>(イ) ICF</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護分野における ICF</li> </ul> <p>(ウ) QOL</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ QOL の考え方・生活の質</li> </ul>
				<p>(エ) ノーマライゼーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノーマライゼーションの考え方</li> </ul> <p>(オ) 虐待防止・身体拘束禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体拘束禁止・高齢者虐待防止法・高齢者の養護者支援</li> </ul> <p>(カ) 個人の権利を守る制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人情報保護法・成年後見制度・日常生活自立支援事業</li> </ul> <p>《演習》</p> <p>「人権や尊厳を守る」とは具体的にどのようなことか、コラムなどを活用し、理解を深める。</p>

②自立に向けた介護	4 時間	0.5 時間	3.5 時間	<p>《講義内容》</p> <p>自立に向けた介護の重要性と意義、介護予防や重度化予防の視点について理解する。</p> <p>(ア) 自立支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立、自律支援・残存能力の活用・動機と欲求・意欲を高める支援</li> <li>・ 個別性/個別ケア・重度化防止</li> </ul> <p>(イ) 介護予防</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護予防の考え方</li> </ul> <p>《演習》</p> <p>食事や排泄など日常動作に一連の流れを知ることが「できること」と「できないこと」を見極め残存能力の活用につながることを理解する。</p>
合計	9 時間	1.5 時間	7.5 時間	

3 介護の基本（6時間）				
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2時間	1時間	1時間	<p>《講義内容》</p> <p>地域包括ケアの重要性や介護職の役割と専門性、多職種の理解と連携の方法について理解する。</p> <p>(ア) 介護環境の特徴の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問介護と施設介護サービスの違い・地域包括ケアの方向性</li> </ul> <p>(イ) 介護の専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化防止、遅延化の視点・利用者主体の支援姿勢・自立した生活を支えるための援助・根拠のある介護・チームケアの重要性・事業所内のチーム・多職種から成るチーム</li> </ul> <p>(ウ) 介護に関わる職種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる専門性を持つ多職種の理解・介護支援専門員・サービス提供責任者・看護師等とチームとなり利用者を支える意味・互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供・チームケアにおける役割分担</li> </ul>
②介護職の職業倫理	1時間	0.5時間	0.5時間	<p>《講義内容》</p> <p>専門家としての社会的責任、倫理に根ざした姿勢、支援の方法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職の倫理の意義</li> <li>・介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）</li> <li>・介護職としての社会的責任</li> <li>・プライバシーの保護、尊重</li> </ul>

<p>③介護における安全の確保と リスクマネジメント</p>	<p>2 時間</p>	<p>1 時間</p>	<p>1 時間</p>	<p>《講義内容》 安全を確保するための事故への備え、環境整備など リスクマネジメントの考え方や方法、感染症予防・ 対策について理解する。 (ア) 介護における安全の確保 ・ 事故に結びつく要因を探り対応していく技術・リ スクとハザード (イ) 事故予防・安全対策 ・ リスクマネジメント・分析の手法と視点・事故に 至った経緯の報告(家族への報告、市町村への報告 等)・情報の共有 (ウ) 感染対策 ・ 感染の原因と経路(感染源の排除、感染経路の遮 断)・「感染」に対する正しい知識</p> <p>《演習内容》 「考えられるリスク」についてグループワークを 行い、未然に防ぐための方法までを検討する(場 面・病気・環境別に検討する)</p>
<p>④介護職の安全</p>	<p>1 時間</p>	<p>0.5 時間</p>	<p>0.5 時間</p>	<p>《講義内容》 介護職員の安全衛生を守るための事業者の取り組み や、こころの健康管理について理解する。 ・ 介護職の健康管理が介護の質に影響 ・ ストレスマネジメント ・ 腰痛の予防に関する知識 ・ 手洗い、うがいの励行 ・ 手洗いの基本 ・ 感染症対策</p> <p>《演習内容》 実際にからだを動かし、ボディメカニクスを理解 する。</p>
<p>合計</p>	<p>6 時間</p>	<p>3 時間</p>	<p>3 時間</p>	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）				
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護保険制度	4時間	0.5 時間	3.5 時間	<p>《講義内容》</p> <p>高齢者の自立を支えるためのしくみやサービスがどのように創り上げられているのか、行政の役割、実際のサービス内容や利用の流れを理解する。</p> <p>(ア) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向</p> <p>・ケアマネジメント・予防重視型システムへの転換・地域包括支援センターの設置・地域包括ケアシステムの推進</p> <p>(イ) 仕組みの基礎的理解</p> <p>・保険制度としての基本的仕組み・介護給付と種類・予防給付・要介護認定の手順</p> <p>(ウ) 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割</p> <p>・財源負担・指定介護サービス事業者の指定</p>
②医療との連携とリハビリテーション	2時間	0.5 時間	1.5 時間	<p>《講義内容》</p> <p>介護職員が行うことができる医療的ケア、リハビリテーションの役割や専門職について理解する。</p> <p>・医行為と介護</p> <p>・訪問看護</p> <p>・施設における看護と介護の役割、連携</p> <p>・リハビリテーションの理念</p> <p>《演習》</p> <p>バイタルチェック（血圧・体温、脈拍等の測定）を実際に行うことで方法を理解する。</p>
③障害福祉制度およびその他制度	3時間	0.5 時間	2.5 時間	<p>《講義内容》</p> <p>障害者総合支援法の理念、制度の仕組み、障害福祉サービス、支援者の連携について理解する。</p> <p>(ア) 障害福祉制度の理念</p> <p>・障害の概念・ICF（国際生活機能分類）</p> <p>(イ) 障害福祉制度の仕組みの基礎的理解</p> <p>・介護給付、訓練給付の申請から支給決定まで</p> <p>(ウ) 個人の権利を守る制度の概要</p> <p>・個人情報保護法・成年後見制度・日常生活自立支援事業</p>
合計	9時間	1.5 時間	7.5 時間	

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）				
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護におけるコミュニケーション	4時間	2時間	2時間	<p>《講義内容》</p> <p>コミュニケーションの意義・目的・役割、基本技術、障害に応じたコミュニケーションの実際について理解する。</p> <p>(ア) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮・傾聴・共感応答</li> </ul> <p>(イ) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言語的・非言語的コミュニケーションの特徴</li> </ul> <p>(ウ) 利用者、家族とのコミュニケーションの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の思いを把握する・意欲低下の要因を考える・利用者の感情に共感する・家族の心理的理解・家族へのいたわりと励まし・信頼関係の形成・自分の価値観で家族の意向を判断し非難することのないようにする・アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い</li> </ul> <p>(エ) 利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術</li> <li>失語症に応じたコミュニケーション技術</li> <li>構音障害に応じたコミュニケーション技術</li> <li>認知症に応じたコミュニケーション技術</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タッチングを実施することで、非言語的コミュニケーションの効果・重要性を理解する。</li> <li>「閉じられた質問から相手の言葉当て」をすることによって回答を得ることに困難さがあることを理解する。</li> <li>事例（認知症や失語症など）を通して、コミュニケーション障害のある方との関わりのあり方を理解する。</li> </ul>

②介護におけるチームのコミュニケーション	2 時間	1 時間	1 時間	<p>《講義内容》</p> <p>記録の意義、効率的な記録方法、報告・連絡・相談の意味、各種会議等の留意点を理解する。</p> <p>(ア) 記録における情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における記録の意義、目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録</li> <li>・介護に関する記録の種類・個別援助計画書（訪問・通所・入所、福祉用具貸与等）・ヒヤリハット報告書・5W1H</li> </ul> <p>(イ) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告の留意点・連絡の留意点・相談の留意点</li> </ul> <p>(ウ) コミュニケーションを促す環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議・情報共有の場・役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼）・ケアカンファレンスの重要性</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <p>「記録の意義に対する認識不足から支援や職員連携に支障を来した職員の事例」を通して、記録の重要性を理解する。</p>
合計	6 時間	3 時間	3 時間	

6 老化の理解（6 時間）

項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3 時間	1.5 時間	1.5 時間	<p>《講義内容》</p> <p>老化により高齢者のこころとからだはどのように変化し、どのような状態になるのか、高齢者介護における基本的な留意点について理解する。</p> <p>(ア) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防衛反応（反射）の変化・喪失体験</li> </ul> <p>(イ) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的機能の変化と日常生活への影響・咀嚼機能の低下・筋、骨、関節の変化・体温維持機能の変化・精神的機能の変化と日常生活への影響</li> </ul> <p>《演習》</p> <p>カラーフィルム等を活用し、「白内障体験」を行い、支援のポイントを理解する。</p>

②高齢者と健康	3 時間	1.5 時間	1.5 時間	<p>《講義内容》</p> <p>高齢者に多い疾患や生活習慣病、日常における高齢者の生活支援の留意点を理解する。</p> <p>(ア) 高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・骨折・筋力の低下と動き、姿勢の変化・関節痛</li> <li>(イ) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</li> <li>・循環器障害（脳梗塞・脳出血・虚血性心疾患）</li> <li>・循環器障害の危険因子と対策・老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症）</li> <li>・誤嚥性肺炎・症状の小さな変化に気づく視点</li> </ul> <p>・高齢者は感染症にかかりやすい</p>
合計	3 時間	3 時間	3 時間	

7 認知症の理解(6時間)				
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①認知症を取り巻く状況	1時間	0.5 時間	0.5 時間	<p>《講義内容》</p> <p>認知症高齢者の行動や心理症状の理解を通して、共感的な姿勢で関わるケアについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パーソンセンタードケア</li> <li>・ 認知症ケアの視点（できることに着目する）</li> </ul> <p>《演習》</p> <p>認知症に関するコラムなどを活用し、グループワークを行い、共感的な関わりのポイントについて理解する。</p>
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	1時間	1時間	<p>《講義内容》</p> <p>認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の定義・物忘れとの違い・せん妄の症状・健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）・治療・薬物療法・認知症に使用される薬</li> </ul>
③認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	2時間	1時間	1時間	<p>《講義内容》</p> <p>認知症の中核症状、行動・心理症状の現れ方や症状、適切なコミュニケーションや基本的なケアの方法、について理解する。</p> <p>(ア) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の中核症状・認知症の行動、心理症状(BPSD)・不適切なケア・生活環境で改善</li> <li>(イ) 認知症の利用者への対応</li> <li>・ 本人の気持ちを推察する・プライドを傷つけない・相手の世界に合わせる・失敗しないような状況をつくる・すべての援助行為がコミュニケーションであると考えること・身体を通じたコミュニケーション・相手の様子、表情、視線、姿勢などから気持ちを洞察する・認知症の進行に合わせたケア</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <p>「認知症の困難事例」を活用し、グループワークを行い、適切な関わり方のポイントについて理解する。</p>

④家族への支援	1 時間	0.5 時間	0.5 時間	《講義内容》 24 時間を通して認知症高齢者に向き合い、支えている家族介護者のさまざまな思いを学び、介護職員として「家族をどう支えるのか」を理解する。 ・認知症の受容過程での援助 ・介護負担の軽減
合計	6 時間	3 時間	3 時間	6
8 障害の理解（3 時間）				
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①障害の基礎的理解	0.75 時間	0.25 時間	0.5 時間	《講義内容》 障害の概念、障害者を支える制度や仕組み、法律など障害に関する基礎的な理解を深める。 （ア）障害の概念と ICF ・ ICF の分類と医学的分類・ ICF の考え方 （イ）障害福祉の基本理念 ・ノーマライゼーションの概念
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1.5 時間	1 時間	0.5 時間	《講義内容》 視覚障害や聴覚障害をはじめ、内部障害や精神障害などについて、疾患や症状、介護における留意点、基本的姿勢を理解する。 （ア）身体障害 ・視覚障害・聴覚、平衡障害・音声、言語、嚥下障害・肢体不自由・内部障害 （イ）知的障害 ・知的障害 （ウ）精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む） ・統合失調症、気分（感情障害）・依存症などの精神疾患・高次脳機能障害・広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 （エ）その他心身の機能障害  《演習》 耳栓やカラーセロファンなどを活用し、聴覚・視覚障害について体験的に理解する。

③家族の心理、かかわり支援の理解	0.75 時間	0.25 時間	0.5 時間	《講義内容》 家族の心理や障害受容、支援にあたっての留意点、 家族に寄り添うことの重要性について理解する。 家族への支援 ・障害の理解、障害の受容支援 ・介護負担の軽減
合計	3時間	1.5 時間	1.5 時間	

9 心とからだのしくみと生活支援技術（7.5時間）					
基本知識の学習	項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	①介護の基本的な考え方	2時間	1時間	1時間	《講義内容》 介護の基本的な考え方として、介護の理念や法的根拠、介護を行う上での視点について理解する。 ・理論に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除） ・法的根拠に基づく介護
	②介護に関する心とからだのしくみの基礎的理解	2.5時間	1時間	1.5時間	《講義内容》 記憶や感情のメカニズムをはじめ、自己概念、老化や障害の受容・適応など心とからだのありようを理解する。 ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ・心の持ち方が行動に与える影響 ・からだの状態が心とに与える影響

	<p>③介護に関するからだのしくみの基礎的理解</p>	7時間	6時間	1時間	<p>《講義内容》          人体各部の名称をはじめ、骨・関節・筋の構造、神経や内部器官など、からだのしくみの基礎的知識を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識</li> <li>・骨、関節、筋に関する基礎知識、 biomechanics の活用</li> <li>・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識</li> <li>・自律神経と内部器官に関する基礎知識</li> <li>・こころとからだを一体的に捉える</li> <li>・利用者の様子の普段との違いに気づく視点</li> </ul>
<p>生活支援技術の講義・演習</p>	<p>④生活と家事</p>	2.5時間	1時間	1.5時間	<p>《講義内容》          生活支援としての家事サービスのありかたを明確にするとともに、実際の調理、洗濯、掃除等の家事サービスにおける留意点などを理解する。</p> <p>家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活歴・自立支援・予防的な対応・主体性、能動性を引き出す・多様な生活習慣・価値観</li> </ul> <p>《演習内容》          シートを活用し、「野菜の切り方」「選択表示記号の読み方」を確認する。</p>

	<p>⑤ 快適な居住環境整備と介護</p>	3 時間	1 時間	2 時間	<p>《講義内容》          快適な居住環境整備に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法          ・家庭内に多い事故・バリアフリー・住宅改修・福祉用具貸与</p> <p>《演習内容》          移動用具や排泄用具など、介護場面で実際に活用されているものを紹介し、実際に触れてみる。</p>
	<p>⑥ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	7.5 時間	7 時間	0.5 時間	<p>《講義内容》          整容に関する基礎知識、整容の支援技術          ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱・身じたく・整容行動・洗面の意義、効果</p> <p>《演習》          衣服の着脱（臥位・座位）、口腔ケアなどを実際に行う。</p>

	<p>⑦移動・移乗に関連 し たところとからだ の しくみと自立に向 け た介護</p>	<p>8.5 時間</p>	<p>7時間</p>	<p>1.5 時間</p> <p>《講義内容》</p> <p>移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介護者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法</li> <li>・利用者の自然な動きの活用・残存能力の活用、自立支援</li> <li>・重心、重力の動きの理解</li> <li>・ボディメカニクスの基本原理</li> <li>・移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗）</li> <li>・移動介助（車いす、歩行器、つえ等）</li> <li>・褥瘡予防</li> </ul> <p>《演習》</p> <p>様々な移動用具を使用し、体位変換、車いすへの移乗・移動、肢体不自由者の杖歩行介助、視覚障がい者の歩行介助など移動支援技術を実際に行う。</p>
--	--	-------------------	------------	--



	<p>⑩排泄に関連したこ こ ろとからだのしく み と自立に向けた介 護</p>	<p>7.5 時間</p>	<p>7時間</p>	<p>0.5 時間</p>	<p>《講義内容》 排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環 境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄 を阻害するところとからだの要因の理解と 支援方法 ・排泄とは・身体面（生理面）での意味・心 理面での意味・社会的な意味・プライド、 羞恥心・プライバシーの確保・おむつは最 後の手段/おむつ使用の弊害・排泄障害が 日常生活上に及ぼす影響・排泄ケアを受け ることで生じる心理的な負担、尊厳や生き る意味との関連・一部介助を要する利用者 のトイレ介助の具体的方法・便秘の予防 （水分の摂取量保持、食事内容の工夫、繊 維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサ ージ）  《演習》 尿器・便器の介助、ポータブルトイレの介 助、おむつ交換等を実際に行う。</p>
	<p>⑪睡眠に関連したこ こ ろとからだのしく み と自立に向けた介 護</p>	<p>5.5 時間</p>	<p>5時間</p>	<p>0.5 時間</p>	<p>《講義内容》 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環 境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害する ところとからだの要因の理解と支援方法 ・安眠のための介護の工夫・環境の整備（温 度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）・ 安楽な姿勢、褥瘡予防  《演習》 心地よい睡眠を確保するためのベッドメイ キングを実際に行う。</p>

	⑫死にゆく人に関した こころとからだのし くみと終末期介護	3時間	2時間	1時間	<p>《講義内容》</p> <p>終末期に関する基礎知識、こころとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援</p> <p>・終末期ケアとは・高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）・臨終が近づいた時の兆候と介護・介護従事者の基本的態度・多職種間の情報共有の必要性</p> <p>《演習》</p> <p>事例を活用し、「その人らしい死を迎えるための介護のあり方」についてグループワークを通じて理解する。</p>
生活支援技術演習	⑬介護過程の基礎的理解	4時間	4時間	<p>《講義内容》</p> <p>・介護過程の目的、意義、展開</p> <p>・介護過程とチームアプローチ</p> <p>《演習》</p> <p>事例を活用し、「介護過程の視点や目的」についてグループワークを通じて理解する。</p>	
	⑭総合生活支援技術演習	7時間	7時間	<p>《講義内容》</p> <p>生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点を習得する。</p> <p>事例の提示⇒こころとからだの力が発揮できない要因の分析⇒適切な支援技術の検討⇒支援技術演習⇒支援技術の課題⇒評価</p> <p>《演習》</p> <p>事例を活用し、「実践的な介護の方法」についてグループワーク・実技演習を通じて理解する。</p>	
実習			(なし)		
合計		75時間	63時間	12時間	

10 振り返り（4時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	3時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修を通じて学んだこと</li> <li>・今後継続して学ぶべきこと</li> <li>・根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）</li> </ul> <p>《演習》 研修で学んだことについて各々レポートにまとめ、発表することで更に学びを深める。</p>
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的に学ぶべきこと</li> <li>・研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例（OFF-JT、OJT）を紹介</li> </ul>
合計	4時間	
全カリキュラム合計時間		130時間

注 「添削指導の進め方」には、例えば、指導の回数、回答の提出期限、評価方法、認定基準、認定基準に満たない受講者に対する対応、質問に対する回答方法等を記載すること。